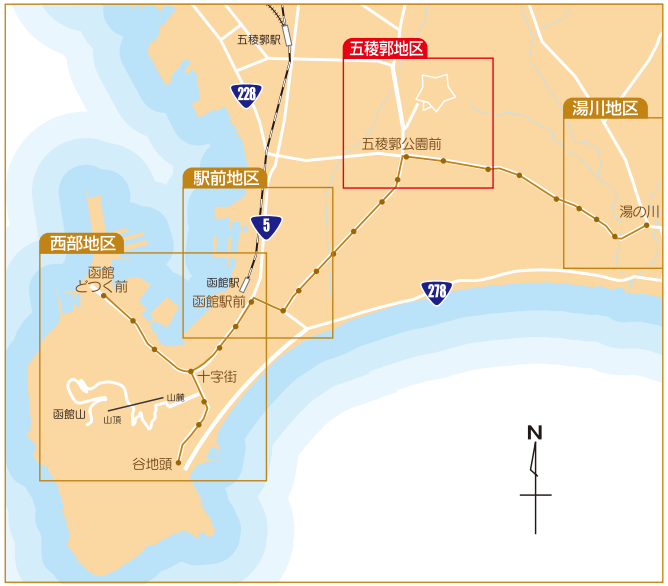
函館全体エリアマップ



五稜郭地区

スタート地点までのアクセス

JR函館駅から3.1km（徒歩42分）
市電（函館駅前より湯の川行き）16分

函館 知ってる? 知ってる?

現在の五稜郭から松川町に伸びる一直線の道は、松川弁之助が五稜郭を築造する際に、物資を運搬するために自費で完成させた道路で、後に「松川街道」とも呼ばれました。松川弁之助は弁天岬台場の築造や当時願乗寺川（現在の高砂通り）の工事にも携わり、箱館に寄与した人物の一人で、松川町の町名は松川弁之助に因んで昭和6年（1931）に命名されています。

松川弁之助　※提供／函館市中央図書館

函館市電路線図

湯の川～十字街間は6分間隔で運転しています。

7分　5～6分　16～17分　15～16分

函館どつく前 → 大町 → 末広町 → 十字街 → 魚市場通 → 市役所前 → 函館駅前 → 松風町 → 新川町 → 千歳町 → 昭和橋 → 堀川町 → 千代台 → 中央病院前 → 五稜郭公園前 → 杉並町 → 柏木町 → 深堀町 → 競馬場前 → 駒場車庫前 → 函館アリーナ前 → 湯の川温泉 → 湯の川

十字街 → 谷地頭 → 青柳町 → 宝来町

7～8分

乗車料金のお支払いには nimoca, Kitaca, Suica, など各種交通系 IC カードがご利用いただけます。

お得な! **市電1日乗車券販売中!** 大人600円・小人300円
お求めは車内のほか、沿線のコンビニ、ホテルなどでどうぞ!

[函館市企業局] 函館市駒場町15番1号 TEL.0138-32-1730
https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/bunya/hakodateshiden/
ケータイから各電停の時刻表も見られる!

函館バス（函館駅前～五稜郭）

30、51、55、59、67系統

函館駅前 → 五稜郭　約15分

大人240円・小人120円

函館バス **1日乗り放題券 バス車内にて販売中!**
大人800円・小人400円

[函館バス株式会社]
函館営業所／函館市高盛町10番1号
TEL.0138-51-3135

函館市公式 観光情報サイト "はこぶら"
https://www.hakobura.jp/

フェスティバルタウンはこだてサイト 函館イベントガイド HAKODATE EVENT GUIDE
https://event.hakobura.jp/

発行・お問合せ先
HAKODATE 函館市観光部 〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号 TEL.0138-21-3383

（2020年1月発行）

歴史 16

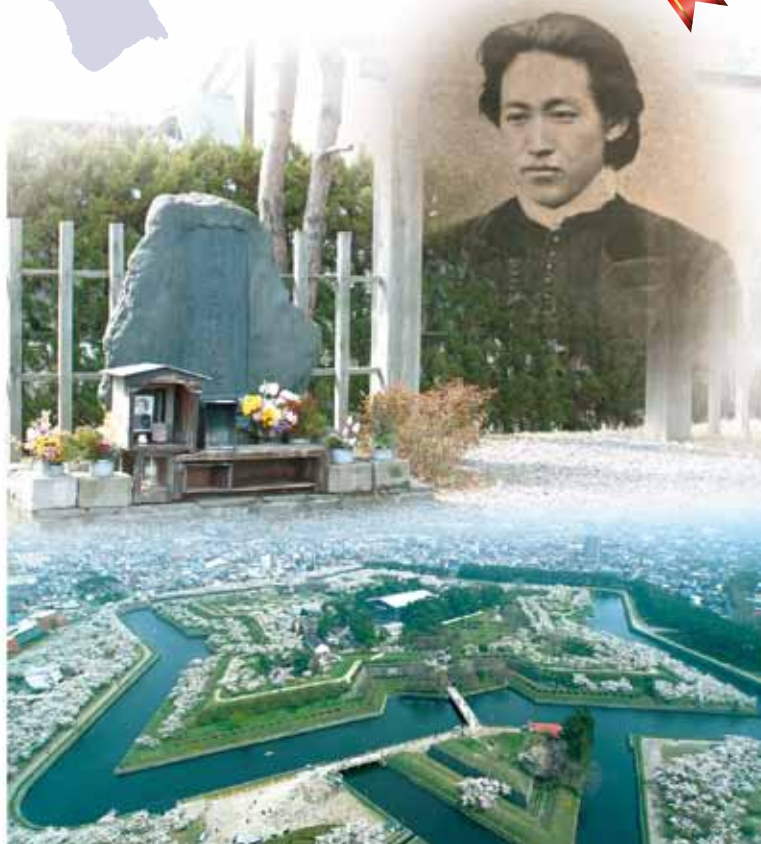
函館 まちあるきマップ

幕末の志士達が駆け抜けた箱館
～土方歳三 散華の道～

所要時間 100分　距離 4.1km　消費カロリー 300kcal

- 特別史跡五稜郭跡
- 五稜郭タワー
- 中島三郎助父子最後之地
- 千代ヶ岡陣屋跡
- 土方歳三最期の地碑

地域でつくる小さな旅 優秀プログラム



幕末の志士達が駆け抜けた箱館 ～土方歳三 散華の道～

所要時間 100分　距離 4.1km　消費カロリー 300kcal　※消費カロリーはおおよその目安です。

スタート！ 五稜郭公園前電停（函館駅前から3.1km 市電／16分 徒歩／42分）
→ 800m 15分 → 1 特別史跡五稜郭跡
→ 90m 2分 → 2 五稜郭タワー
→ 1,200m 20分 → 3 中島三郎助父子最後之地
→ 330m 6分 → 4 千代ヶ岡陣屋跡
→ 1,700m 30分 → 5 土方歳三最期の地碑 ゴール!!

1 特別史跡五稜郭跡

五稜郭跡は、西洋式土塁で幕末の箱館開港に伴い移転された箱館奉行所が置かれた。箱館奉行支配諸術調所教授役で蘭学者の武田斐三郎により、中世ヨーロッパの城塞都市を参考として設計され、稜堡と呼ばれる5つの突角をもつ星形の土塁が巡らされていることから「五稜郭」の名がつけられた。明治元年（1868）10月に榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が占拠、翌明治2年（1869）5月に終結する箱館戦争の舞台となった。

2 五稜郭タワー

五稜郭タワーの展望台からは、五稜郭跡の全景はもちろんのこと、五稜郭築城の際に松川弁之助が造ったまっすぐに伸びている道（旧松川街道）を眺めることができる。

開館 4月21日～10月20日 8:00～19:00
（その他の期間9:00～18:00）
五稜星の夢期間中（冬季）9:00～19:00
1月1日 6:00～19:00

入場料 大人900円 中・高生680円 小学生450円

休 年中無休

3 中島三郎助父子最後之地

箱館戦争当時、中島三郎助は、箱館奉行並として千代ヶ岡陣屋を守備していた。新政府軍が箱館を制圧し、降伏勧告をしたが、最後まで拒絶し続け、息子2人と共に戦死した。

中島廉売

昭和9年頃に形成された100店舗余りからなる商店街で、全国的にも珍しい通年営業の露店がある。安さと新鮮さで親しまれている「市民の台所」。

4 千代ヶ岡陣屋跡

現在の中島小学校付近から千代台運動公園にかけた一帯は、津軽藩が築いた陣屋であった。箱館戦争時、新政府軍の攻撃により中島三郎助父子らが壮絶な最期を遂げ、この陣屋は陥落した。現在、中島三郎助父子に因んで、千代ヶ岡陣屋のあった付近が中島町と命名されている。

5 土方歳三最期の地碑

京都で勤皇の志士たちを震え上がらせた新撰組の副長土方歳三が戦死したといわれる場所（土方が戦死した場所は諸説ある）。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍に合流した土方は、明治2年（1869）市街を制圧した新政府軍を相手に激しく戦い、馬上で幾多の銃弾をうけ壮絶な戦死を遂げたといわれる。昭和33年（1958）にこの石碑が建立されて以来、全国から土方ファンが訪れ、いつも花が絶えることがない。

土方歳三（1835～1869）

天保6年（1835）武蔵国（東京都）生まれ。近藤勇らとともに新撰組を結成。仙台で榎本らと合流し旧幕府脱走軍では陸軍奉行並となる。明治2年（1869）5月11日箱館総攻撃の際、孤立した弁天岬台場を助けに向かう途中、一本木関門付近（現若松町）で銃撃をうけ35年の生涯を閉じたと言われている。（土方戦死の場所は一本木のほか諸説がある。）

※写真提供／函館市中央図書館